

## 終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア

村田久行 日本ペインクリニック学会誌

vol.18No.1、1~8、2011

### 要旨

緩和医療の臨床で生の無意味、無価値、空虚などの苦しみを訴える終末期がん患者のスピリチュアルペインを「自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛」と定義して、それを人間存在の時間性、関係性、自律性の三次元から分析した。その結果、終末期がん患者のスピリチュアルペインを、将来の喪失（時間性）、他者の喪失（関係性）、自律性の喪失（自律性）から生じる苦痛であると解明し、この構造解明に基づきスピリチュアルペインの指針は、死をも超えた将来の回復、他者の回復、自律の回復にあることを示した。そして、終末期がん患者のスピリチュアルペインの緩和が患者の身体的苦痛の軽減に影響を与えることを示唆した。

### 目的

体験の意味を解明する方法である現象学的アプローチを用いて終末期がん患者のスピリチュアルペインを解明し、そのケアの指針と方法を示すこと。そして、そのケアの結果としてのスピリチュアルペインの緩和が患者の身体的苦痛の軽減に影響を与えることを示唆する。

### 研究方法

研究の対象とする終末期がん患者のスピリチュアルペインを「自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛」と定義し、終末期がん患者が「自己の存在と意味の消滅」をどのように体験し、それが患者の意識の志向性に応じて患者にどのような苦痛として現れているのかという、その苦痛の現出の仕方を明らかにする現象学的アプローチを用いて、そこに生じる患者のスピリチュアルペインの構造について考察する。

### 終末期がん患者のスピリチュアルペインの構造

終末期がん患者のスピリチュアルペインの構造は、時間存在、関係存在、自律存在の三次元から解明される（

表 1、図 1 参照）。また実際の臨床においては、スピリチュアルペインは時間性・関係性・自律性のそれぞれにおいて整然と表出されるわけではない。それらは流動し、刻々と変化する患者の意識の志向性に応じて現出するゆえに、互いに複合し、同時にまた、他の身体的・心理的・社会的ペインとも混在して表出される。そして

スピリチュアルペインを察知し、理解するには構造化したアセスメントの理論的枠組みが必要であり、スピリチュアルペインの構造からスピリチュアルケアの指針を得ることが出来る（図 2、別紙表 2 参照）。

### スピリチュアルケアの方法・援助的コミュニケーションとは

スピリチュアルケアとはスピリチュアルペインをケアすることである。スピリチュアルケアの方法としては傾聴と共感、ともにいることである。特に、傾聴はスピリチュアルケアの方法としてかかすことが出来ない。人は心から聴いてもらえると、気持ちが落ち着き、考え

が整い、生きる力が湧く、聴くことはそれだけで援助になる。終末期がん患者に対して出来る最後で最大な援助は共感を示しつつ傾聴することである。この傾聴を患者の苦しみを和らげる専門的な援助の方法とするには訓練が必要で「援助的コミュニケーションの原理」として示される(図3)。

### **事例・スピリチュアルペインの緩和と身体的苦痛の軽減**

本文 p6、X参照

#### **考察**

事例の A さんのスピリチュアルペインは、孤立と孤独、医師や家族の無理解、痛みによる無為不能と自己喪失の痛み、すなわち関係性と自律性における「自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛」である。その苦痛が A さんの意識の志向性を痛み集中させ、孤立し、ますますスピリチュアルペインを深めることになり、それがまた、痛みを増強させるという悪循環になっていたと考えられる。

医師はこの30分の会話中、薬剤投与もなしに援助的コミュニケーションをつかって A さんの苦しみを傾聴したにすぎない。しかし A さんのスピリチュアルペインは、その苦しみの意味を分かって傾聴してくれる医師の対応によってケアされ、それが患者の長引く痛みの軽減に効果があったと考えられる。

#### **おわりに**

痛みを苦しむ人は孤独である。「痛みとは体験である」からである。体験は他者と分かち合えないし、分かり合えない、強い痛みを苦しむ人は、分かってもらえない孤独(関係性)、先が見えない不安(時間性)、自分ではどうしようもない無力(自律性)に痛み、自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛(スピリチュアルペイン)を感じている。それゆえ、患者の痛みの訴えは多重である。身体的苦痛の訴えは自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛(スピリチュアルペイン)を含んでいる。また、それには、医療者に聴いてほしい、分かってほしいという関係性の訴えが含まれている。それゆえ、患者の痛みの訴えに焦点をあてた医療者の聴く態度とスピリチュアルペインが患者の安心と自律を促し、それが身体・神経組織からの痛みを軽減することもあるのではないか。これらの多重な痛みのメッセージを聴き、ケアすることで患者の自己の存在と意味の回復を支え、終末期がん患者のみならず、様々な難治性疼痛の緩和と軽減されることを願う。